

平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 湊 小学校
校長氏名	中 村 典 弘
作成日	平成28年2月19日

1 教育目標

人間性豊かでたくましい子
 「み・な・と」の教育の推進
 み…「未来にはばたくたくましい子」 な…「何事も真剣にやりとげる子」 と…「友達を大切にする子」

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	○地域・保護者との「つながり力」を大切にする。 ・地域に学ぶ教育の推進 ・見守り隊との交流協議会の開催 ・地域防災・学校安全教育の推進 ・学校開放月間における学校活動の公開	○道徳の学習を充実させることで心の耕しを図る。 ・読書活動の推進(「うちどく」活動の充実) ・道徳の一斉授業公開 ・縦割り活動の推進 ・清掃活動の向上	○担任力を高め、学力の向上を図る。 ・授業力や学級経営力の向上 ・基礎学力と学習習慣の定着 ・「湊っ子タイム1・2(基礎学タイム)」の充実 ・和歌山県学力向上推進校の指定の継続 ・全員が研究授業を実践

取組の状況【D】	・喜楽会(敬老会)や公民館、第3生活学校との交流活動を実施 ・年度初めに見守り隊・育友会・学校の三者の協議会を開催 ・湊地区自治会や防災会の協力で「津波避難経路図」を作成 ・多様なゲストティーチャーによる様々な活動を実施(水墨画教室、住金構内での写生教室、湊太鼓、生姜作り、読み聞かせ、減災教室、防犯教室、交通安全教室等) ・11月に学校開放(人権講演会、学年めぐり集会、道徳学習公開等)	・読み聞かせボランティアの招聘と「うちどく」活動の推進(うちどく圖書の充実、うちどく表彰、うちどくノートの活用) ・道徳の授業を参観日に全学年一斉公開(11月の開放月間中) ・「わたしたちの道徳」「心のとびら」の活用 ・縦割り活動を行事に取り入れ、異学年の交流活動を充実 ・全教職員による清掃指導 ・登下校時の挨拶運動の徹底(見守り隊への挨拶、児童会の挨拶運動)	・基礎学力向上タイムの取組の推進(セレンブレイン(計算パズル)(2年連続指定)、湊っ子タイム1・2) ・「放課後学習等フォローアップ事業」の指定をもらっての実施 ・「漢字博士検定」の全校児童への実施 ・平成27年度和歌山県学力向上推進校の指定(5年連続) ・全員研究授業を実施し、ペア学習・グループ学習等の学習形態を推進 ・算数科における「かくこと」を通しての学力向上(ノート指導等)
(評価結果【C】)	・喜楽会(敬老会)と第3生活学校との交流活動は6年生で、公民館との交流は3年生で実施した。 ・三者協議会において見守り隊の活動への保護者理解を図った。学校行事や集会を通し児童から感謝の気持ちを伝えた。 ・湊地区連合自治会や地区防災会、和歌山市地域安全課等の協力により、児童の自宅から津波避難場所までの経路図を作成した。 ・多様なゲストティーチャーを招聘して教育活動を進めることで、学習活動に広がりや深まりが見られた。(水墨画教室、湊太鼓、生姜作り、読み聞かせ、コーラス指導、オペラワークショップ、減災教室、交通安全教室、行政相談出張教室等)	・読み聞かせボランティア(グループ声)の招聘を月に1回行い、うちどくコーナーの本とうちどく賞の充実を図ることで、低・中学年児童の読書意欲が高まった。 ・11月の開放月間と人権月間に合わせ、授業参観の時に全学級で道徳の授業を実施し、徳育の重要性を保護者に認識してもらった。 ・縦割り活動を学校行事に位置付けて異年齢活動を推進した。(縦割り遠足、縦割り運動会種目、なわとび集会など) ・掃除の分担場所は多い。職員朝礼の時間を見直し、児童と一緒に清掃活動に取り組むように指導した。 ・登下校時の見守り隊の人への挨拶を児童・保護者に呼びかけた。	・授業力向上のため、「授業力向上自己診断シート」を作成し担任に実施した。 ・「放課後学習等フォローアップ事業」により、基礎学力に課題のある児童の学力向上が図れた。 ・「漢字博士検定」に全員で取り組むことにより、漢字学習の意欲が高まった。 ・現職教育における算数科の研究授業を各学級担任全員が実施することで教員の資質向上が図れた。 ・研究テーマのかくことの指導(ノート指導など)については、5年目を迎え児童への定着が図られてきた。 ・全国学力学習状況調査や県学習到達度調査では、国語・算数・理科ともに全国平均や県平均よりも高い結果となった。 ・年度初めから、和歌山大学の学生ボランティアを受け入れた。
改善方法【A】	・育友会の教育講演会や学級懇談会などでも参加者が少ない。保護者や地域の人たちが学校にもっと来ていただくための工夫をする。 ・住民参加型総合防災訓練の実施継続。地域と学校との合同避難訓練で登下校時の避難訓練を実施する。 ・小学校と幼稚園との接続・連携は、専任園長と協議し、教育計画に掲載した上で連携活動を推進する。	・「うちどくノート」への記載と「うちどく賞」の発行の両面を進展させる活動への工夫が必要である。高学年の読書意欲を高める新たな取組を考えたい。 ・児童会等の常設委員会組織による挨拶運動等の活動を充実させる。 ・怠惰で粗暴な言動、生活規律と学習規律の緩み、放課後の遊び方等、生活指導上の気になる児童への対応を進める。	・現職教育では算数科の取組を続ける。アクティブラーニングの考えを取り入れた研究を推進することが課題である。 ・学力向上タイム(読書タイム、湊っ子タイム、フォローアップタイム)の推進と漢字博士検定や放課後フォローアップ学習事業による基礎学力の向上を図る。 ・家庭学習(予習・復習・自主学習)を保護者の協力により計画的に実行する。 ・「きしゅうっ子学びノート」の活用を図る。

3 その他の課題